

はしがき

■ 編集の趣旨

本書は、「集中2週間完成」シリーズの一冊として、古典文法の基礎的な事項を確認しながら、あわせて古文の読解力を養うことを目標として編集しました。主として高校一年生を対象にしましたが、古典文法の基本を復習しようという二・三年生にも有益です。

■ 本書の特長

- 1 学習の区切りがつきやすいように、各学習日とも原則として見開き二ページに収めました。
- 2 上段に「演習問題」を、下段に「学習のポイント」を配置し、自学自習にも授業にも用いることができるようにしました。
- 3 「演習問題」には比較的平易な文を厳選し、必要に応じて問題文の左側に口語訳を付けて、効率的な学習ができるように配慮しました。
- 4 「学習のポイント」には、その学習日で取り上げる文法事項を整理し、重要箇所は丁寧に解説しました。本欄は同時に、「演習問題」のヒントになっています。
- 5 用言・助動詞・助詞それぞれの学習日の末尾に、復習とまとめのための「プラスα」を3箇所設けました。
- 6 解答書き込み欄を設けるとともに、自己診断テストとして使用できるように制限時間と配点を示しました。

7 「別冊解答書」を用意しました。特に「解説」欄では、「学習のポイント」との関連に注意しながら、正解に至る筋道を具体的に説明して、自力で学習し採点する時の参考となるように努めました。

本書を選んだ皆さん、本書に二週間じっくり取り組んで、古典文法の基本をしっかりと身につけてください。

編者

目次

第1日	文語文法入門	歴史的かなづかい・文語の読み方・品詞の特色・活用の種類	4
第2日	動詞 ①	カ行変格活用・ナ行変格活用・サ行変格活用・ラ行変格活用・下一段活用	6
第3日	動詞 ②	四段活用・上一段活用・上二段活用・下二段活用	8
第4日	動詞のまとめ	活用の種類の見分け方・活用形の見分け方・動詞の音便	10
第5日	形容詞・形容動詞	ク活用・シク活用・ナリ活用・タリ活用	12
第6日	用言のまとめ	形容詞・形容動詞の語幹の用法・活用形の特異な用法	14
プラスα	1	用言の整理	16
第7日	助動詞 ①	る・らる・す・さす・しむ・ず	18
第8日	助動詞 ②	き・けり・つ・ぬ・たり・り	20
第9日	助動詞 ③	む・むず・べし・らむ・けむ・めり・らし・まし	22
第10日	助動詞 ④	じ・まじ・なり・たり・なり	24
第11日	助動詞 ⑤	まほし・たし・ごとし・ゆ・らゆ・す・ふ	26
プラスα	2	助動詞の整理	28
第12日	助詞 ①	格助詞・接続助詞・係助詞・係り結びの法則	30
第13日	助詞 ②	副助詞・終助詞・間投助詞	32
プラスα	3	付属語の整理	34
第14日	副詞・敬語法	副詞の種類・敬語の種類・敬意の対象	37



〈歴史的かなづかい〉

1 五十音図の「ア行」「ヤ行」「ワ行」を書きなさい。(2点×3)

あ

や

わ

2 ワ行の「ゐ」と「ゑ」を練習してみよう。(1点×2)

ゐ

ゑ

〈文語の読み方〉

3 次の各語の読み方を例にならって現代かなづかいで書きなさい。(2点×10)

(例) いづれ (何れ) ↓ いずれ

- ① たまふ (給ふ) ② かうい (更衣) ③ めふ (酔ふ) ④ ゐる (居る) ⑤ をり (居り)
 ⑥ いうじよ (遊女) ⑦ めうやく (妙薬) ⑧ けうくん (教訓) ⑨ ちづ (地図) ⑩ かへる (蛙)

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〈品詞の特色・活用の種類〉

4 次の表は各品詞と活用形の文語と口語の特色を比較対照したものである。() 内に入る語を書きなさい。(2点×4)

	文	語	口	語
動詞	① 終止形は ()	()	終止形はウ段	()
形容詞	② 終止形は ()	()	終止形は「い」	()
形容動詞	③ 終止形は ()	()	終止形は「だ」	()
活用形	④ ()	()	仮定形	()

5 次の表は動詞の活用の種類を文語と口語で比較したものである。() 内に入る語を書きなさい。(2点×8)

	文	語	口	語
四段活用	① ()	()	④ ()	()
上二段活用	② ()	()	上二段活用	()
③ ()	()	()	上二段活用	()
⑤ ()	()	()	上二段活用	()
⑥ ()	()	()	下一段活用	()
カ行変格活用	⑦ ()	()	下一段活用	()
⑧ ()	()	()	サ行変格活用	()

学語のポイント

五十音図

次の表は古典を勉強するとき、特に文語文法に必要な五十音図である。口語との違いは、ヤ行もワ行もア段からオ段まですべてであるという点である。

	← 段										
	あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ	→ 行 ↓
	い	き	し	ち	に	ひ	み	い	り	ゐ	
	う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	う	
	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ	
	お	こ	そ	と	の	ほ	も	よ	ろ	を	

ヤ行の「い」「え」のほかに、ワ行の「ゐ」と「ゑ」が新しく加わる。カタカナにする時、「ヰ」と「ヱ」になる。

「ゐ」「ゑ」は漢字の「為」からできている。「ゑ」は「恵」がもとの漢字である。

歴史的かなづかいの読み方

口語（現代語）は、一般に現代かなづかいで書かれるが、古典（文語文）では、歴史的かなづかいが用いられる。

- ① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む。
- かほら (川原) ↓ カワラ
- いは (家) ↓ イエ
- ② ローマ字書きして *me* となるものは「(オ)」と読む。
- あつち *atsumi* (鳥の名) ↓ オーム
- かう *kau* (番) ↓ コー
- にとなるものは「(エ)」と読む。
- いづ女 *izuzome* (遊女) ↓ ユージョ
- きつか *kyuzuka* (休暇) ↓ キューカ
- ねくなるものは「(ヨ)」と読む。
- かえつ *kaetsu* (不要) ↓ フヨー
- ちゅうう *chuuu* (小雨) ↓ ショウウ
- ③ 「け」「か」「こ」(「か」「け」「こ」)は「(こ)」(「け」「か」「こ」)と読む。
- なごほ *nago* (今) ↓ ナゴ
- 「キウ」となり、「きう」(「きう」)「キョー」「オーキ」「キュー」と読む。
- ④ 「くわ・くわ」は「カ・カ」と読む。

なさい。(2点×4)